

17日の東京市場では、日経平均株価は78円高の22,270円と反発した。米中貿易摩擦の懸念が後退し前日の米国株が大幅高したことから、投資家心理が改善し東京市場でも幅広い銘柄に買いが広がった。ただ、決算発表一巡で手掛かり材料が乏しかったこともあり、上値を追う勢いは限られ、日経平均株価の日中値幅は96円と小動きだった。東証1部売買代金は概算で1兆8,455億円と2兆円を下回るなど低調。業種別TOPIX株価指数は33業種中、海運業や精密機器、鉱業など29業種が上昇した。なお週間ベースでは、日経平均株価は27円(0.12%)、TOPIXも1.31%下落した。

東証1部の売買代金トップは任天堂(7974)で2.7%高、2位のソフトバンク(9984)も0.35%高と共に反発したほか、三菱UFJ(8306)やトヨタ(7203)、ソニー(6758)なども上昇した。その他売買代金上位ではファストリ(9983)が2.1%安、スズキ(7269)も1.3%安、東京エレクトロン(8035)も1.3%下落した一方、前日まで軟調だったSUMCO(3436)や資生堂(4911)には買い戻しが広がった。

新興市場では、日経ジャスダック平均が0.29%、マザーズ指数も1.73%ともに反発した。ジャスダック市場売買代金トップはテロロジー(3356)で5.6%安、3位のユニバーサル(6425)も1.5%下落、前日まで14連騰していたMTジェネック(9820)も5.1%安と反落した。マザーズ市場売買代金トップのエクストリーム(6033)は前日まで12営業日続伸していた反動から一時ストップ安水準まで売られ、終値も26.7%と大幅反落となった。2位のソレイジア(4597)は、同社が開発中の抗がん剤に関し南米企業と独占販売権契約を締結したことが材料視され22.5%上昇した。

17日の米国市場では、NYダウ平均は110ドル高の25,669ドルと大幅反発した。米国と中国が貿易摩擦の解消に向けて交渉するといった報道が好感され、キャピラーやポインティングなどを中心に全般的に堅調となった。S&P500指数も0.33%上昇したが、四半期決算を受けてエヌビディアやアプライドマテリアルズなどが下落したこともあってNASDAQ総合指数は0.13%の上昇にとどまった。

20日の東京市場は底堅い動きとなりそうだ。米中貿易摩擦解消に向けた期待から前週末の米国株が続伸しており、日本株にも追い風となろう。日経平均株価の予想PERは17日終値で13.03倍と割安感が強く、4~6月の四半期決算も堅調だった。今週は夏季休暇シーズンで低調だった需給も回復してくると思われ、トルコリラ安などの影響で下げた水準からの反発が期待できそうだ。

## (ご留意事項等)

本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。当社は、本資料の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。また、本資料内に記載された内容等は本資料作成時のものであり、予告なく変更される場合があります。本資料の利用にあたり、投資に関する最終決定を行う場合は、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。

本資料に含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本資料内で直接または間接的に取り上げている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。

商号等： あかつき証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号

加入協会： 日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

本店営業部	: 03-5641-7810		
八日市場支店	: 0479-72-1331	松阪支店	: 0598-21-6616
成田支店	: 0476-24-2061	長浜支店	: 0749-62-1900
新座志木支店	: 048-473-6441	大阪支店	: 06-6946-9220
武蔵小杉支店	: 044-733-8000	加古川支店	: 079-423-1500
平塚支店	: 0463-22-0920	赤穂支店	: 0791-43-2155
磐田支店	: 0538-33-5211	カスタマーセンター	: 0120-753-960